

「赦しを奪う妬みの基」

～赦しの完成は愛して向き合うこと～

ヨハネ20：19～23

■ 主な解決方法

ある晩、裕福な家の晩餐会に招かれた女性が、席に着いた時その豪華な銀食器の数々を見て、自分の家の物とは全く違う…と悲しくなり比較の自思いに駆られました。そして、そっと自分のカバンに一つ盗み入れてしまったのです。あなたがその瞬間を偶然目にしてしまったら、どうするでしょう。召使いにそれを取り返すように指示するのでしょうか。責め立てるのでしょうか。しかし偶然それを見てしまった家の主は、タイミングを見計い、余興として彼女のカバンの中に銀食器をテレポーションしたかの様なマジックの演出をしたので、食器を盗んでしまった彼女は、結果それを自然に返却することになりました。彼女は帰る時に家の主に深々とお辞儀をして、「あなたに心から感謝します。」と言って帰りました。神様のなされる解決とはこのようなもので、人の取る方法とは全く違います。「平安があなたがたにあるように。」ヨハネ20:19

■ 怒りを引き起こすのは「ねたみ」

怒った相手に罰を与えたい気持ちになるのは、自分の怒りと比べて相手が良い状況に見える時にねたみを覚えるからです。相手に不公平を感じて罰を求めてしまいます。始めにねたみを持ったのは、悪魔：大天使ルシファーでした。彼は被造物の中でも優秀な天使として造られ、多くの力を与えられていました。大好きな神様のために一生懸命な彼でしたが、神様が人をお造りになった時にその大好きな神様が、人をご自分に似せ造られ、さらに彼にその人に対して仕えることを命じました。その愛に激しく嫉妬しました。やがてそのねたみは怒りとなっていきましました。自分と比べてしまったのです。そうして自分が神様のようになりたいたいと思ってしまうために、下を向いてしまった彼には比較という嫉妬が生まれ、怒りへと発展してしましました。怒りは悪魔の心をはらみ、やがて悪魔へと墮落してしましました。墮天使ルシファーはこうして、神様に愛され造られた人の敵となり、人を神の愛から引き離すこと、すなわち滅びをのぞむようになりました。悪魔はこうした妬みで満ちた比較の心から生まれました。その後、妬みは人に継承されていくことになるのです。

■ ねたみの継承 ～聖書に見る嫉妬 stories

- ・カインとアベル…神様への捧げものに対する評価の比較
- ・アブラハムとロト…持ち物の比較
- ・イサクとエサウ、ヤコブ…親の偏愛という比較
- ・ヤコブとラケル、レア…姉妹間の比較
- ・ヨセフと兄たち…兄弟間の比較
- ・ダビデとサウル…嫉妬、評価の比較
- ・ヨナと子孫…

■ 人はねたむと敵になる！ 重要な人ほど妬ましい？

ねたみとは…比較することで引き起こされる社会的感情であり、比較する他者が心理的に自分に近く、自分にとって重要な領域であるほど妬みという感情が喚起されること。

①ねたみ・比較は悪魔の根源

～ねたみの継承は死！！

赦しを奪うのはねたみです。ねたみは罪を超えて悪なのです。私たちの人生を狂わす根源なのです。悪魔が狙うのは、妬みを引き起こして、神様と人（＝隣人＝重要な人）との関係を壊し、祝福を奪い去ることです。比較の心は神様から離れている証拠です！自分を正当化し正義を振りかざして己の罪を見ず、相手に滅びを招き、やがてそれは自分や相手に死をもたらすのです。

マタイ 27:16-19

「ピラトは彼らが妬みからイエスを引き渡したことに気づいていたのです。」マタイ 27:18

②ねたみと戦う方法は向き合うこと

～神様から目を離してはいけなく！
聖霊様と共にまっすぐに～

向き合うこと以外にねたみに対する解決方法はありません。ですが、相手の塵を取りたい時、その人と向き合う前に、まず自分の目の梁（罪）に気が付いているか、よく理解し確認しましょう。神様に、自分の目線がまっすぐになっているか祈り、その目の梁を取り去ってからでないかと相手の塵を取ることはできないのです。あなたが許さなければならそれはあなたのただなかに残るのです。これが悪魔のプロセスです。車にランクがあるように、比較対象があるから検討しやすいかのような良性的妬みは、すべての秩序を支配する正義に成り代わっていますが、クリスチャンの人生にはそんな良性的妬みは不要です。信仰を立て上げていくのは比較ではなく、志を立て、志によって成し遂げる方法だからです。神様と自分の間にのみ、あなたのものでありたいという向上心は生まれるのです。敵対するような向上心や人との比較は不要なのです。

③許されるねたみとはねたまれること

～私のために迫害されるのは喜び～

「そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。」ローマ 11:14

十字架の恵みは慈しみ、愛するとはキリストの癒し許せないのは自分のことも許していない傷が癒されていないからです。向き合う前に、敵になる前に、まず自分の罪と向き合しましょう。キリストの証者とは自分の罪が許されたことを理解して、隣人と向き合うことができる人です。そのように向き合うと、銀食器を盗もうとした彼女のよように、比較の悲しみを通し、知恵によって改心という脱出の道が与えられました。神様の方法、荒野の学びとはこのように患難を通して与えられるのです。神の恵みと摂理を理解し、脱出の道を必ず用意して、与えてくださる神様に感謝をもって祈り、比較する心と戦い続けることをあきらめないことです。いつの間にかその目線がズレていかに再確認をしながら歩みましょう。

(要約者:牧 三貴子)

(2019年4月28日)